

第5期総合計画:重点施策推進管理評価調書【重点項目4】

	評価年度	平成27年度
重点項目	4 生涯を通して学べるまちづくり	
	子どもたちの「生きる力」を育てるとともに、生涯にわたって学びに接することができる「生涯学習によるまちづくり」を進めます。	

	分野	施策	施策の内容	27年度 評価	26年度 評価	担当課	計画書 掲載頁
重点施策	義務教育	教育環境の整備	施設の老朽化や児童生徒数の動向などに応じて、学校教育施設を計画的に改修、整備します。 学校図書、パソコンなど教育に必要な環境整備に努めます。	5	5	学校教育課	64
		義務教育内容の充実	確かな学力をはぐむため、学習指導要領に基づき、個に応じたきめ細かな指導を展開します。また、チーム・ティーチングや、少人数による教育を推進します。 一人ひとりの良さを伸ばす教育、創意工夫を生かした特色ある教育の実践を支援します。	5	5		
	高校教育、高等教育	高校教育、高等教育の充実	地域に開かれた高校や大学をめざし、町民を対象とした各種開放講座等の開催などを協働で進めます。	4.50	4.50	企画課 生涯学習課	66
	生涯学習の 体制づくり	推進体制、人材の確保	生涯学習指導者等の養成とリーダーバンク制度の充実に努め、登録者の活用、拡大をはかります。	4	4	生涯学習課	69
		施設の活用、連携	生涯学習の活動拠点として、生涯学習のセンター機能の整備、充実に努めます。	5	5		
	社会教育	図書館の充実	図書館活動の拡充に積極的に取り組み、蔵書の整備を計画的に進めます。	4	4	図書館	70
	スポーツ	利用しやすいスポーツ活動の場づくり	スポーツ施設の整備、維持管理を計画的に進めます。	4.50	4.50	スポーツ課 町民課	71
	芸術、文化	芸術文化活動の促進	町民に優れた芸術文化の鑑賞機会を提供します。	5	4	文化センター	73
重点施策の推進状況評価の平均				4.63	4.50		



評価区分	A 順調に進んでいる (4.50~5.00) B 概ね順調に進んでいる (4.00~4.49) C 推進が必要 (3.00~3.99) D 更なる推進が必要 (0~2.99)	A
------	--	----------

推進状況	重点項目4は、1施策で推進状況が進展した。小中学校における耐震補強は、非構造部材などの耐震化が完了した。また、スポーツ施設の整備については、ひばりが丘サッカー場の整備に着手した。文化・芸術事業の参加者数は大きく伸びており、町民に優れた芸術文化の鑑賞機会を提供している。その他の施策については順調又は概ね順調に進められており、町民の学習環境の整備に努めている。
------	---

評価結果	学校支援に関して、小学校を拠点とした地域での学校支援ボランティアが必要ではないか。 少人数学級に関して、町で独自に5人の先生を採用しているが、子どもに目配りが行き届くような人材配置を継続して行う必要がある。 外国語教育に関して、仕事等で英語を活用する機会が増えていることから、英語で会話ができるようになる教育を行う必要がある。 義務教育内容の充実に関して、地元の良さを伝えて郷土愛を育むため、郷土学習を推進するとともに、大人も共有する必要がある。 図書館の充実に関して、インターネットで蔵書の検索や貸出予約ができる機能の整備や、図書館以外の場所に返却窓口を設置する等、利用しやすい環境を整える必要がある。
------	--

重点施策	4 生涯を通じて学べるまちづくり
------	------------------

分野	義務教育
----	------

施策	教育環境の整備
----	---------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	当初数値(年度)	中間数値(年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	目標値(H32)
指標1	「小・中学校の教育環境」の満足度	まちづくり町民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)	パーセント	80.0(H20)	82.9(H26)	84.5						83.0

●事務事業の実績

・事務事業1		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	小・中学校耐震補強	棟	—	18						【26年度】 非構造部材耐震改修設計(26年度は設計のみ) 【27年度】 小学校13棟 中学校5棟	学校教育課
事業概要	非構造部材の耐震補強	千円	12,059	165,403							
成果名	実施棟数	評価	貢献度 達成度	3 3	3 3						

・事務事業2		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	教育用コンピュータ整備	台/人	1	1						事業費は備考資金組合返還金	学校教育課
事業概要	児童生徒用のコンピュータ整備	千円	15,280	16,885							
成果名	1人あたりの保有台数	評価	貢献度 達成度	3 3	3 3						

・事務事業3		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	スクールバス更新	台	1	0						【26年度】 マイクロバスの更新 然別線 全体台数 1台 【27年度】 更新が必要なスクールバスがなかった。	学校教育課
事業概要	老朽化に伴う更新	千円	6,847	0							
成果名	更新台数	評価	貢献度 達成度	2 3	2 3						

評価基準 貢献度 3: 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2: 貢献している(施策を推進する事務事業) 1: 貢献していない
達成度 3: 順調に進んでいる(80~100%) 2: 一定程度進んでいる(50%~79%) 1: 遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
26年度(中間)	5	第5期総合計画策定時から重点に位置づけてある施策であり、5評価とする。	5	老朽化が進む学校施設を改修し、安心・安全な教育環境を構築するとともに、学校図書や児童生徒のパソコン整備を計画的に実施していることから、5評価とした。
27年度	5	同上	5	学校施設の非構造部材について、耐震化が完了した。今後も継続して施設の安全性確保や学校図書、児童生徒用パソコンの整備を実施していくことから、5評価とした。
28年度				
29年度				
30年度				
31年度				
32年度				
評価基準	5: 重点及び早急に推進することが必要な施策 4: 更なる推進が必要な施策 3: 現状で推進する施策 2: 現状においては推進に時間を要する施策 1: 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5: 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4: 一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3: あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2: 着手した程度(20%未満) 1: 未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	指標の「小・中学校の教育環境」の満足度は、着実に増加しており、27年度は84.5パーセントで、最終年度目標値を上回っている。
施策の課題	今後も現施策により推進していくが、老朽化が進む施設やスクールバスの修繕及び、学校図書や児童生徒用パソコンの充実に向けた費用の増加が課題となる。
総合評価(施策の方向性)	計画的な学校施設、備品等の整備により施策の推進が図られている。小中学校耐震化事業、音更中学校改築事業は、27年度をもって完了した。児童生徒の学力向上と豊かな心を育むため、引き続き教育環境の整備を推進する必要がある。

■第5期総合計画:推進管理評価調書【施策(個表)】

重点施策	4 生涯を通じて学べるまちづくり
------	------------------

分野	義務教育
----	------

施策	義務教育内容の充実
----	-----------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	当初数値(年度)	中間数値(年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	目標値(H32)
指標1	「小・中学校の教育環境」の満足度	まちづくり町民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)	パーセント	80.0(H20)	82.9(H26)	84.5						83.0

●事務事業の実績

・事務事業1			単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	小学校外国語活動(外部英語講師)	成果数値	時間	15	15						学校教育課	
事業概要	小学校外国語活動に外部英語講師を委託により派遣	事業費実績	千円	2,182	2,115							
成果名	講師派遣時間(クラス当たり)	評価	貢献度	2	2							
			達成度	3	3							

・事務事業2			単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	おとづけ給食の実施	成果数値	回	13	12						地場消費拡大推進事業	学校教育課
事業概要	地場の食材を活用した給食の提供	事業費実績	千円	0	0							
成果名	実施回数	評価	貢献度	2	2							
			達成度	3	3							

・事務事業3			単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	就学援助費	成果数値	人	897	869						学校教育課	
事業概要	要保護世帯及び準要保護世帯への就学費用の援助	事業費実績	千円	81,930	79,434							
成果名	受給者数	評価	貢献度	3	3							
			達成度	3	3							

評価基準
 貢献度 3: 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2: 貢献している(施策を推進する事務事業) 1: 貢献していない
 達成度 3: 順調に進んでいる(80~100%) 2: 一定程度進んでいる(50%~79%) 1: 遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
26年度(中間)	5	第5期総合計画策定時から重点に位置づけてある施策であり、5評価とする。	5	教材教具等の整備など、学習しやすい環境づくりに努めている。また、低所得世帯への就学援助など、保護者負担の軽減を図っているほか、児童生徒の問題に対する教員以外の指導員等を配置し、子どもたちの抱える問題解決にあたっていることから、5評価とした。
27年度	5	同上	5	前年度と同様の状況であることから、5評価とした。
28年度				
29年度				
30年度				
31年度				
32年度				
評価基準	5: 重点及び早急に推進することが必要な施策 4: 更なる推進が必要な施策 3: 現状で推進する施策 2: 現状においては推進に時間を要する施策 1: 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5: 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4: 一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3: あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2: 着手した程度(20%未満) 1: 未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	指標の「小・中学校の教育環境」の満足度は、着実に増加しており、27年度は84.5パーセントで、最終年度目標値を上回っている。
施策の課題	今後も現施策により推進していくが、各学校の備品が老朽化していることから、今後の負担が課題となっている。
総合評価(施策の方向性)	各種事業の実施により、施策の推進が図られている。確かな学力、豊かな心、健やかな体を育むため、引き続き義務教育内容を充実させていく必要がある。

重点施策	4 生涯を通じて学べるまちづくり
------	------------------

分野	社会教育
----	------

施策	高校教育、高等教育の充実
----	--------------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	当初数値(年度)	中間数値(年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	目標値(H32)
指標1	音更高等学校間口数	普通科の間口数	間口	4(H21)	4(H26)	4						4
指標2	共同・連携生涯学習講座の開催数	OOJCオープンカレッジ、高校開放講座の開催数	回	135(H21)	159(H26)	157						170

●事務事業の実績

・事務事業1		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	十勝圏活性化推進期成会での要請	成果数値	回	4	5					十勝総合振興局、帯広開発建設部、北海道、北海道開発局、地元選出国會議員等	企画課
事業概要	19市町村で組織する期成会により、国、北海道等へ要請を行う。	事業費実績	千円	—	—						
成果名	要請回数	評価	貢献度	2	2						
			達成度	3	3						

・事務事業2		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	共同・連携生涯学習講座の開催数	成果数値	人	1,472	1,567					【26年度】OOJCオープンカレッジ参加者数 1,239人、高校開放講座の開催数 233人 【27年度】OOJCオープンカレッジ参加者数 1,294人、高校開放講座の開催数 273人	生涯学習課
事業概要	町と帯広大谷短期大学、音更高等学校との共催による生涯学習プログラム。	事業費実績	千円	938	1,032						
成果名	参加者数	評価	貢献度	3	3						
			達成度	3	3						

評価基準 貢献度 3: 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2: 貢献している(施策を推進する事務事業) 1: 貢献していない
達成度 3: 順調に進んでいる(80~100%) 2: 一定程度進んでいる(50%~79%) 1: 遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
26年度(中間)	5	第5期総合計画策定時から重点に位置づけてある施策であり、5評価とする。	4.50	・期成会により、例年どおり教育環境の充実等の要請を行ったことから、4評価とした。(企画課) ・OOJC・高校開放講座ともに例年並みの回数を実施し、町民の学習機会の提供を図ることができたことから、5評価とした。(生涯学習課)
27年度	5	同上	4.50	・前年度と同様の状況であることから、4評価とした。(企画課) ・前年度と同様の状況であることから、5評価とした。(生涯学習課)
28年度				
29年度				
30年度				
31年度				
32年度				
評価基準	5: 重点及び早急に推進することが必要な施策 4: 更なる推進が必要な施策 3: 現状で推進する施策 2: 現状においては推進に時間を要する施策 1: 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5: 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4: 一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3: あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2: 着手した程度(20%未満) 1: 未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	指標の音更高等学校間口数は、4間口を維持しており、共同・連携生涯学習講座の開催数は、前年度並みとなっている。
施策の課題	施策に大きな課題等はないが、生涯学習講座は新たな受講者の取込みと若い世代に興味を持ってもらうような周知方法を検討しなければならない。
総合評価(施策の方向性)	十勝圏域による教育環境整備の要請や、地域に開かれた高等教育機関への取組を通じて施策の推進が図られている。引き続き十勝圏が連携して要請を行うとともに、生涯学習によるまちづくりの実現のため、町、町民、関係機関が一体となって学習機会を提供していく必要がある。

■第5期総合計画：推進管理評価調査【施策（個表）】

重点施策	4 生涯を通じて学べるまちづくり
------	------------------

分野	生涯学習の体制づくり
----	------------

施策	推進体制、人材の確保
----	------------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	当初数値(年度)	中間数値(年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	目標値(H32)
指標1	「生涯学習の情報や機会の提供」の満足度	まちづくり町民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)	パーセント	84.4(H20)	85.3(H26)	86.2						87.0
指標2	リーダーバンクの登録者数	指導者のリーダーバンクへの登録者数(累計)	件	78(H21)	82(H26)	82						100

●事務事業の実績

・事務事業1		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	リーダーバンク事業	成果数値	件	82	82						生涯学習課
事業概要	一般教養、スポーツなど生涯学習活動の指導者等を登録し、サークル等の求めに応じて紹介する。	事業費実績	千円	—	—						
成果名	登録者数	評価	貢献度	3	3						
			達成度	3	3						

・事務事業2		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	OOJCオープンカレッジ、高校開放講座	成果数値	回	159	157					【26年度】 OOJCオープンカレッジ 54回、高校開放講座 105回 【27年度】 OOJCオープンカレッジ 48回、高校開放講座 109回	生涯学習課
事業概要	町と帯広大谷短期大学、音更高等学校との共催による生涯学習プログラム。	事業費実績	千円	938	1,032						
成果名	年間開催数	評価	貢献度	3	3						
			達成度	3	3						

評価基準 貢献度 3: 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2: 貢献している(施策を推進する事務事業) 1: 貢献していない
 達成度 3: 順調に進んでいる(80~100%) 2: 一定程度進んでいる(50%~79%) 1: 遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
26年度(中間)	5	第5期総合計画策定時から重点に位置づけてある施策であり、5評価とする。	4	生涯学習推進協議会、推進本部により関係機関と連携して生涯学習を推進している。また、各種事業、講座などでリーダーバンク登録者に尽力いただき、町民の学習機会の拡充に寄与していることから、4評価とした。
27年度	5	同上	4	前年度と同様の状況であることから、4評価とした。
28年度				
29年度				
30年度				
31年度				
32年度				
評価基準	5: 重点及び早急に推進することが必要な施策 4: 更なる推進が必要な施策 3: 現状で推進する施策 2: 現状においては推進に時間を要する施策 1: 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5: 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4: 一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3: あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2: 着手した程度(20%未満) 1: 未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	指標の「生涯学習の情報や機会の提供」の満足度は、0.9パーセント増加した。リーダーバンクの登録者数は、前年度と同数になっている。
施策の課題	施策に大きな課題等はないが、リーダーバンク新規指導者の発掘が必要である。
総合評価(施策の方向性)	生涯学習推進協議会、推進本部を設置して帯広大谷短期大学など関係機関と連携し、施策の推進が図られている。また、リーダーバンク制度により豊富な知識や技術を持った方を講師として登録している。引き続き関係機関との連携を深めて施策を推進するとともに、町民ニーズに対応した学習機会を提供するため、登録者の拡大を進めていく必要がある。

重点施策	4 生涯を通じて学べるまちづくり
------	------------------

分野	生涯学習の体制づくり
----	------------

施策	施設の活用、連携
----	----------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	当初数値(年度)	中間数値(年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	目標値(H32)
指標1	公民館の利用者数	公民館の年間利用者数	人	7,026(H21)	5,932(H26)	5,429						7,500
指標2	集団研修施設の利用者数	集団研修施設の年間利用者数	人	7,662(H21)	7,628(H26)	7,971						8,000

●事務事業の実績

・事務事業1		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	センター機能の活用	成果数値	人	3,248	4,023					【26年度】温水ポンプの修繕 事業費は、環境改善センター管理費	生涯学習課
事業概要	拠点としての生涯学習センター等の活用	事業費実績	千円	6,582	4,230						
成果名	生涯学習センターの利用者数	評価	貢献度	3	3						
			達成度	3	3						

・事務事業2		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	集団研修施設の活用	成果数値	人	7,628	7,971					【26年度】トイレ改修工事(洋式化)・外壁コーキング 【27年度】施設外灯省電力化工事(LED)	生涯学習課
事業概要	生涯学習活動としての集団研修施設の活用	事業費実績	千円	11,766	7,956						
成果名	集団研修施設の利用者数	評価	貢献度	3	3						
			達成度	3	3						

評価基準 貢献度 3: 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2: 貢献している(施策を推進する事務事業) 1: 貢献していない
達成度 3: 順調に進んでいる(80~100%) 2: 一定程度進んでいる(50%~79%) 1: 遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
26年度(中間)	5	第5期総合計画策定時から重点に位置づけてある施策であり、5評価とする。	5	生涯学習センターを中心に、旧小学校を活用した集団研修施設等は、生涯学習の活動拠点として町内外の児童、生徒及び成人団体など多くの方が利用していることから、5評価とした。
27年度	5	同上	5	前年度と同様の状況であることから、5評価とした。
28年度				
29年度				
30年度				
31年度				
32年度				
評価基準	5: 重点及び早急に推進することが必要な施策 4: 更なる推進が必要な施策 3: 現状で推進する施策 2: 現状においては推進に時間を要する施策 1: 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5: 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4: 一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3: あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2: 着手した程度(20%未満) 1: 未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	指標の公民館の利用者数は、約500人減少しているが、地区公民館の集計数値となっている。集団研修施設の利用者数は、直近の3年間は7,600~7,900人台で推移している。
施策の課題	施策に大きな課題等はないが、施設及び設備の老朽化に伴う修繕等が必要である。
総合評価(施策の方向性)	生涯学習センター及び集団研修施設の利用者は増加しており、施策の推進が図られている。引き続き町民の生涯学習の拠点、情報発信の場として機能の充実を図るとともに、町民が利用しやすい環境整備に努める必要がある。

■第5期総合計画:推進管理評価調査【施策(個表)】

重点施策	4 生涯を通じて学べるまちづくり
------	------------------

分野	社会教育
----	------

施策	図書館の充実
----	--------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	当初数値(年度)	中間数値(年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	目標値(H32)
指標1	図書館利用者数	図書の貸出延べ人数(年間)	人	65,212(H21)	56,513(H26)	59,198						60,000
指標2	年間一人当たり貸出冊数	町民一人当たり貸出冊数(年間)	冊	6.4(H21)	5.9(H26)	6.1						6.2
指標3	図書館蔵書冊数	本館・分館をあわせた蔵書冊数	冊	172,115(H21)	197,977(H26)	202,364						210,000

●事務事業の実績

・事務事業1		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	図書資料等の整備	成果数値	冊	197,977	202,364					【26年度】2,717冊除籍、5,930冊購入 【27年度】3,809冊除籍、6,473冊購入	図書館
事業概要	同上	事業費実績	千円	10,300	10,345						
成果名	蔵書冊数	評価	貢献度	3	3						
			達成度	3	3						

・事務事業2		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	読書活動振興事業	成果数値	人	3,819	4,344					【26年度】読書感想文コンクール 310人、図書交換会 193人、古雑誌市 125人など全20事業 【27年度】読書感想文コンクール 252人、図書交換会 198人、古雑誌市 140人など全24事業	図書館
事業概要	講演会、コンサート等の図書館利用者を増やすための取組	事業費実績	千円	442	448						
成果名	参加人数	評価	貢献度	2	2						
			達成度	3	3						

評価基準 貢献度 3: 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2: 貢献している(施策を推進する事務事業) 1: 貢献していない
達成度 3: 順調に進んでいる(80~100%) 2: 一定程度進んでいる(50%~79%) 1: 遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
26年度(中間)	5	第5期総合計画策定時から重点に位置づけてある施策であり、5評価とする。	4	蔵書は増加しているが、図書館利用者数は前年度から減少していることから、4評価とした。
27年度	5	同上	4	利用者数、年間貸出冊数ともに前年を上回り改善が見られたが、基準年度には至っていないことから、4評価とした。
28年度				
29年度				
30年度				
31年度				
32年度				
評価基準	5: 重点及び早急に推進することが必要な施策 4: 更なる推進が必要な施策 3: 現状で推進する施策 2: 現状においては推進に時間を要する施策 1: 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5: 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4: 一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3: あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2: 着手した程度(20%未満) 1: 未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	指標の図書館利用者数及び年間一人当たり貸出冊数は、どちらも27年度は前年度より増加しているが、基準年度には至っていない。蔵書冊数は増加傾向にあり、最終年度目標値の21万冊を上回った。
施策の課題	施策に大きな課題等はないが、蔵書収容能力の限界に近づいてきており、不用な資料の除籍をすすめるとともに、蔵書収容能力を高めていく必要がある。
総合評価(施策の方向性)	図書の計画的整備により蔵書は増加し、利用者に新鮮な資料を提供できている。また、減少傾向にあった利用状況が増加に転じている。町民が利用しやすい図書館の環境整備のため、ニーズに合わせた資料等の提供と図書館活動の充実にも努める必要がある。

重点施策	4 生涯を通じて学べるまちづくり
------	------------------

分野	スポーツ
----	------

施策	利用しやすいスポーツ活動の場づくり
----	-------------------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	当初数値(年度)	中間数値(年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	目標値(H32)
指標1	「スポーツ施設の充実」の満足度	まちづくり町民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)	パーセント	81.1(H20)	80.5(H26)	86.9						83.0
指標2	スポーツ活動利用者数	スポーツ活動の施設年間利用者数	人	295,390(H21)	314,821(H26)	301,518						314,821

●事務事業の実績

・事務事業1		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	総合体育館・武道館の運営管理	成果数値	人	178,225	189,101						スポーツ課
事業概要	同上	事業費実績	千円	94,864	78,849						
成果名	利用人数	評価	貢献度 達成度	3 3	3 3						

・事務事業2		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	スポーツ施設の新設・改修事業	成果数値	箇所	1	1					【26年度実施事業】 多目的広場バックネット更新・土改良工事 【27年度実施事業】 ひばりが丘サッカー場新設設計委託	スポーツ課
事業概要	同上	事業費実績	千円	11,448	22,324						
成果名	箇所数	評価	貢献度 達成度	3 2	3 2						

・事務事業3		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	学校開放事業	成果数値	人	90,002	87,791					【26年度対象施設】 町内小・中学校および旧東中音更小・旧南中土幌小 【27年度対象施設】 町内小・中学校および旧東中音更小・旧南中土幌小・旧豊田小	スポーツ課
事業概要	学校体育館等の施設を開放し、スポーツ活動に利用	事業費実績	千円	1,256	1,283						
成果名	利用者数	評価	貢献度 達成度	3 3	3 3						

評価基準
 貢献度 3: 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2: 貢献している(施策を推進する事務事業) 1: 貢献していない
 達成度 3: 順調に進んでいる(80~100%) 2: 一定程度進んでいる(50%~79%) 1: 遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
26年度(中間)	5	第5期総合計画策定時から重点に位置づけてある施策であり、5評価とする。	4.50	・既存施設の改修を行い、スポーツ施設整備計画に基づき整備を進めていることから、4評価とした。(スポーツ課) ・駒場会館、ひびき野会館、木野北部児童館、共栄コミセン、総合福祉センター、木野コミセンを活用して軽スポーツが行なわれていることから、5評価とした。(町民課)
27年度	5	同上	4.50	・スポーツ施設整備計画に基づき、ひばりが丘サッカー場新設に伴う作業を進めていることから、4評価とした。(スポーツ課) ・前年度と同様の状況であることから、5評価とした。(町民課)
28年度				
29年度				
30年度				
31年度				
32年度				
評価基準	5: 重点及び早急に推進することが必要な施策 4: 更なる推進が必要な施策 3: 現状で推進する施策 2: 現状においては推進に時間を要する施策 1: 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5: 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4: 一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3: あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2: 着手した程度(20%未満) 1: 未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	指標の「スポーツ施設の充実」の満足度は、前年度から大きく増加した。一方、スポーツ活動利用者数は、基準年度を上回っているが、前年度から減少している。
施策の課題	施策に大きな課題等はないが、財政的な要因からスポーツ施設整備計画に基づいた整備が難航しており、未整備の施設がある。
総合評価(施策の方向性)	スポーツ活動機会や環境の充実のため小・中学校や地域会館等の活用、また、スポーツ施設整備計画に基づく施設新設や既存施設の改修、維持管理等を行い、施策の推進が図られている。今後は財政面との調整を図りながら整備を推進していく必要がある。

■第5期総合計画：推進管理評価調査【施策（個表）】

重点施策	4 生涯を通じて学べるまちづくり
------	------------------

分野	芸術、文化
----	-------

施策	芸術文化活動の促進
----	-----------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	当初数値(年度)	中間数値(年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	目標値(H32)
指標1	「芸術文化活動の促進」の満足度	まちづくり町民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)	パーセント	86.4(H20)	85.2(H26)	91.1						87.0
指標2	文化・芸術事業の参加者数	芸術鑑賞や文化祭などの参加人数(年間)	人	15,816(H17~21の平均)	14,210(H26)	19,637						16,000

●事務事業の実績

・事務事業1		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	文化祭の実施	成果数値	人	6,690	6,686					【26年度】主要な事業 作品展示 3,862人、芸能発表大会 1,700人、菊花・盆栽展示会 1,022人 【27年度】主要な事業 作品展示 3,966人、芸能発表大会 1,600人、菊花・盆栽展示会 970人	文化センター
事業概要	芸能発表・作品展示等により住民の文化高揚を図る。	事業費実績	千円	1,855	1,855						
成果名	参加人数	評価	貢献度	3	3						
			達成度	3	3						

・事務事業2		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	小・中学生の芸術鑑賞事業	成果数値	人	2,735	2,719					【26年度】小学生 劇団四季ミュージカル「ふたりのロッテ」 中学生 札幌交響楽団コンサート(帯広市と共同開催) 【27年度】小学生 児童劇「100万回生きたねこ」 中学生 札幌交響楽団コンサート(帯広市と共同開催)	文化センター
事業概要	小・中学生に芸術鑑賞の場を提供する。	事業費実績	千円	3,486	3,816						
成果名	参加人数	評価	貢献度	3	3						
			達成度	3	3						

・事務事業3		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	文化事業協会運営事業補助	成果数値	人	4,785	10,232					【26年度】13事業(一青窈コンサートツアー2014~2015~私重奏~、第27回大地展、ミュージカル「クリスマスキャロル」ほか) 【27年度】16事業(五島龍ヴァイオリン・リサイタル2015、第28回大地展、ホリプロ「熱海殺人事件」ほか)	文化センター
事業概要	鑑賞の機会と場の充実をめざし、文化芸術事業の企画実施を行う。	事業費実績	千円	5,500	5,500						
成果名	参加人数	評価	貢献度	3	3						
			達成度	3	3						

評価基準 貢献度 3: 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2: 貢献している(施策を推進する事務事業) 1: 貢献していない
達成度 3: 順調に進んでいる(80~100%) 2: 一定程度進んでいる(50%~79%) 1: 遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
26年度(中間)	5	第5期総合計画策定時から重点に位置づけてある施策であり、5評価とする。	4	参加人数は、基準年度に比べ約10パーセント減少しているが、対前年比では約7パーセントの伸びとなり、文化事業協会と連携し実施している、各種コンサートなど芸術文化の鑑賞機会を提供することにより、参加人数が増加となったため、4評価とした。
27年度	5	同上	5	文化事業協会との連携事業が5,447人増加したことにより、基準年及び対前年との比較ともに増加となったことから、5評価とした。
28年度				
29年度				
30年度				
31年度				
32年度				
評価基準	5: 重点及び早急に推進することが必要な施策 4: 更なる推進が必要な施策 3: 現状で推進する施策 2: 現状においては推進に時間を要する施策 1: 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5: 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4: 一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3: あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2: 着手した程度(20%未満) 1: 未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	指標の「芸術文化活動の促進」の満足度は、前年度から大きく増加し、最終年度目標値の87.0パーセントを上回った。文化・芸術事業の参加者数は、一時期に減少傾向にあったが25年度から増加に転じ、27年度は文化事業協会との連携事業の伸びが大きく、前年度から大きく増加し、目標値を上回っている。
施策の課題	施策に課題等はなく、現施策により推進するが、芸術鑑賞事業は、多様化する町民ニーズの影響から催し物の内容によって参加者が大きく変動する傾向にある。
総合評価(施策の方向性)	文化センターを拠点として町民に優れた芸術文化の鑑賞機会を提供し、施策の推進が図られている。多様化する町民ニーズを踏まえ、今後も関係団体と連携し、事業内容を十分検討して参加の機会を充実させる必要がある。